

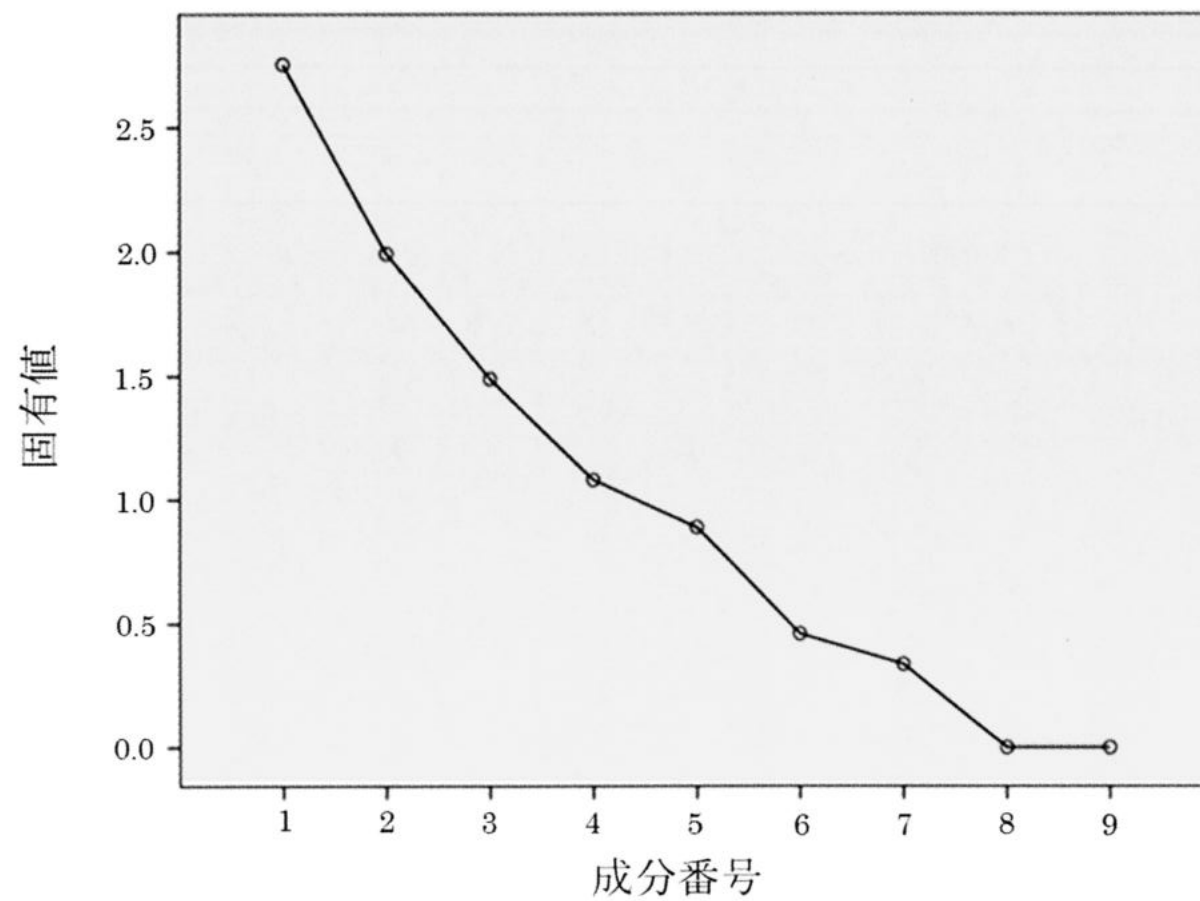


図1. 主成分分析による固有値のスクリープロット (幼児)

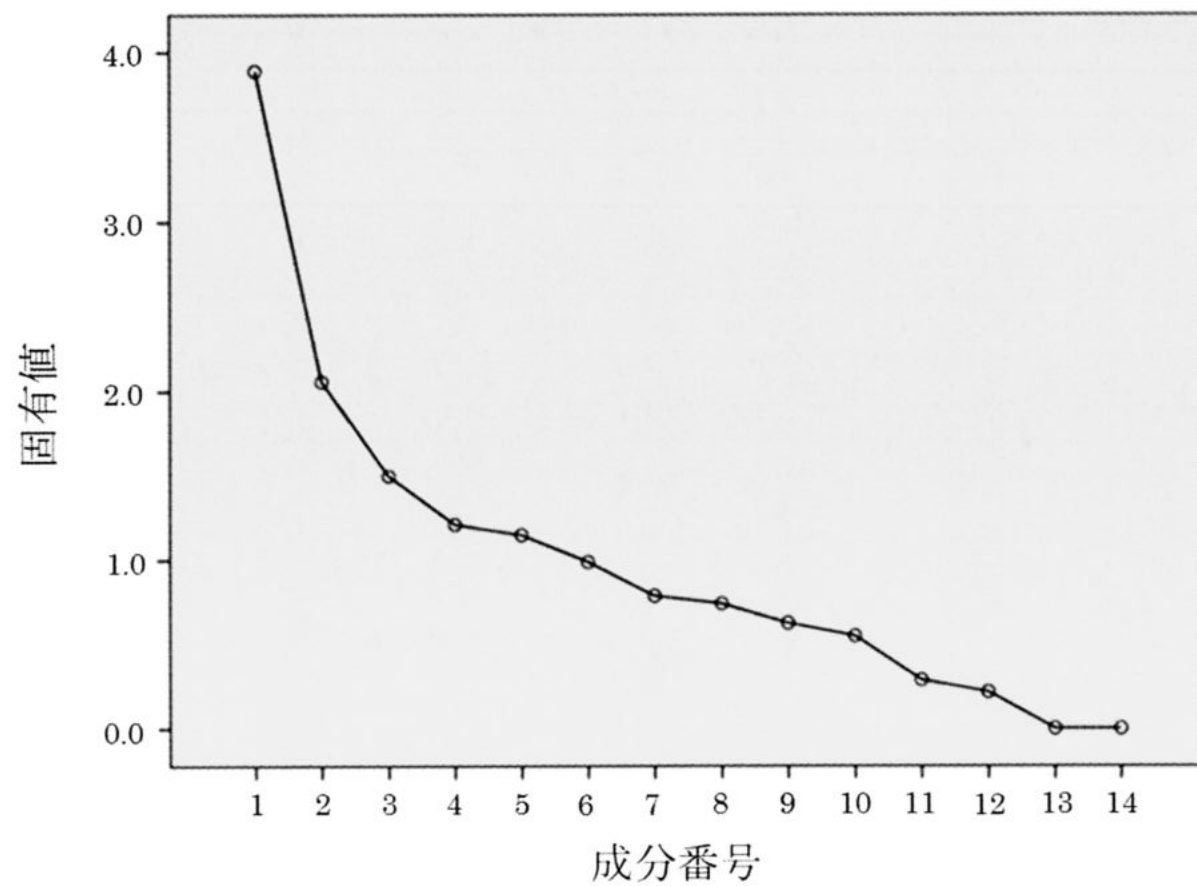


図2. 主成分分析による固有値のスクリープロット (低学年)

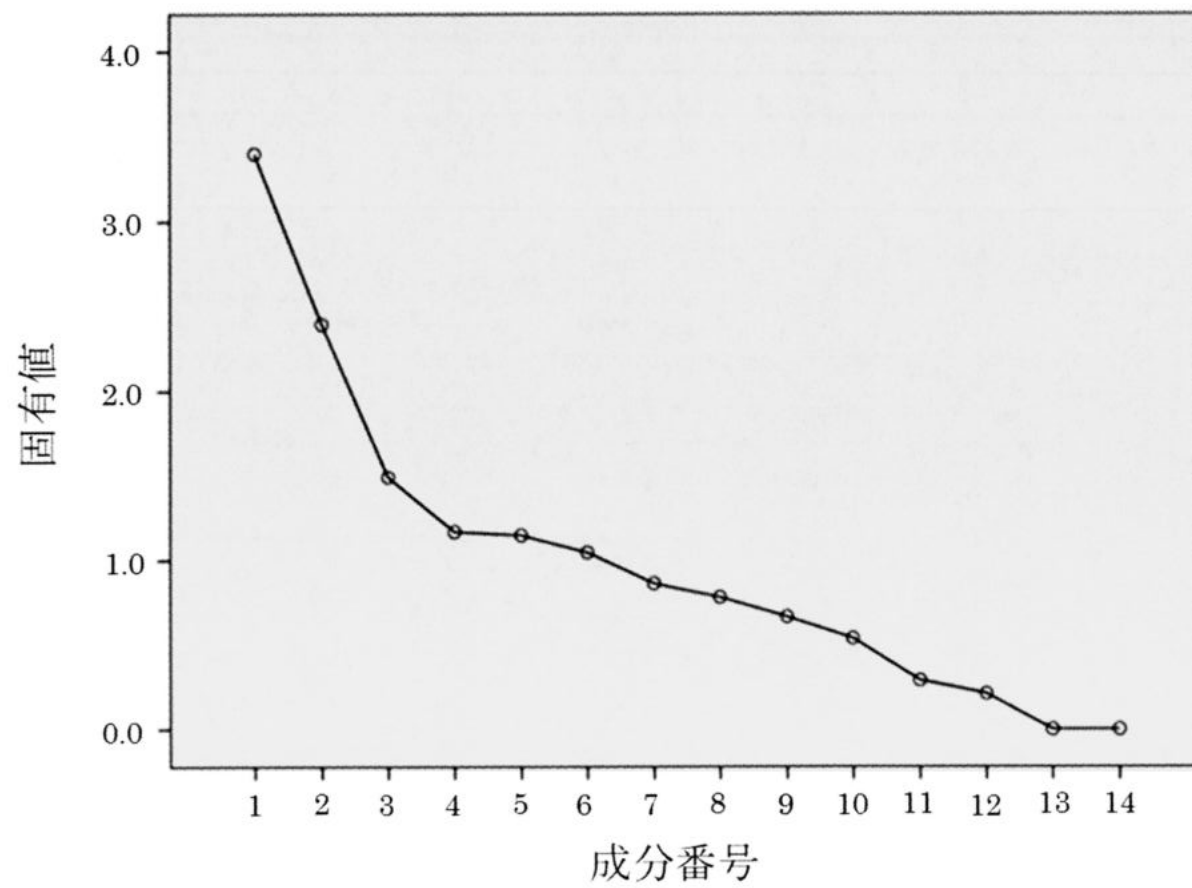


図3. 主成分分析による固有値のスクリープロット（高学年）

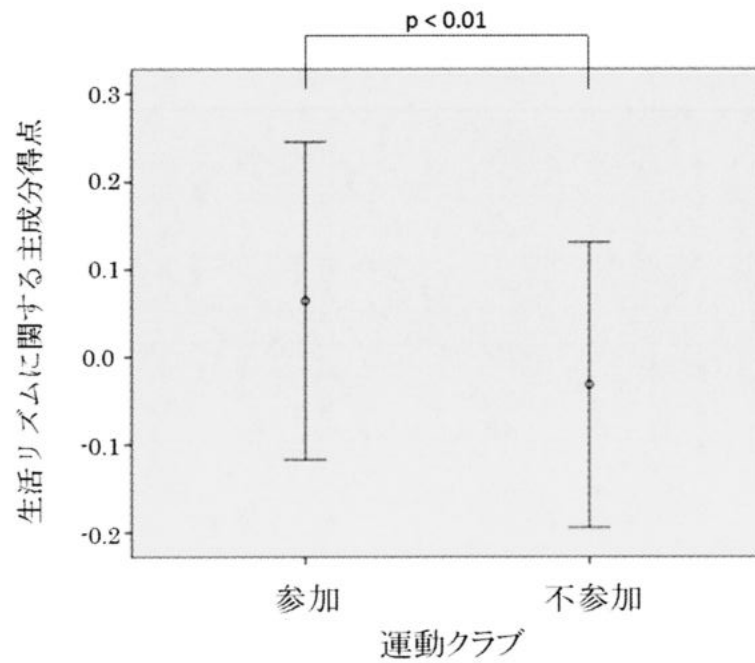


図4. 生活リズムと運動クラブ参加の関係（幼児）

○は平均値、error barは95%信頼区間を示す。群間の比較には、Mann-WhitneyのU検定を用いた。

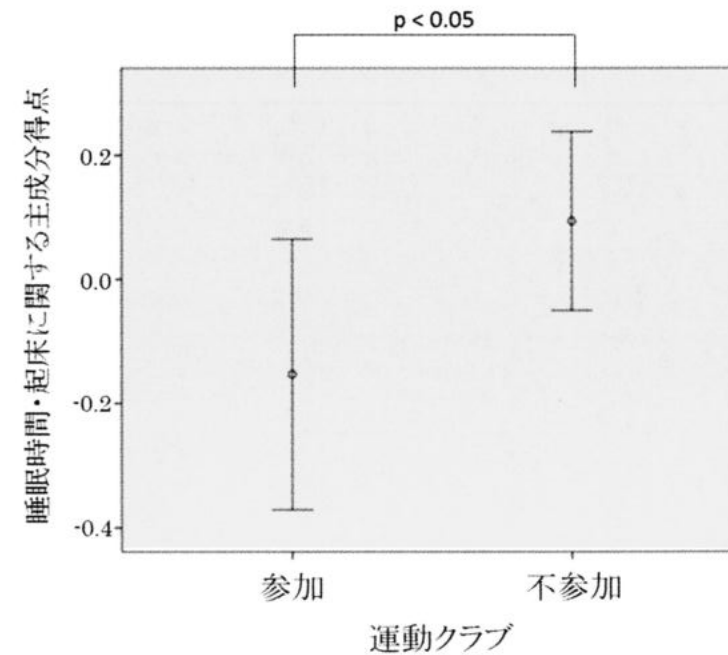


図5. 睡眠時間・起床と運動クラブ参加の関係（幼児）

○は平均値、error barは95%信頼区間を示す。群間の比較には、Mann-WhitneyのU検定を用いた。

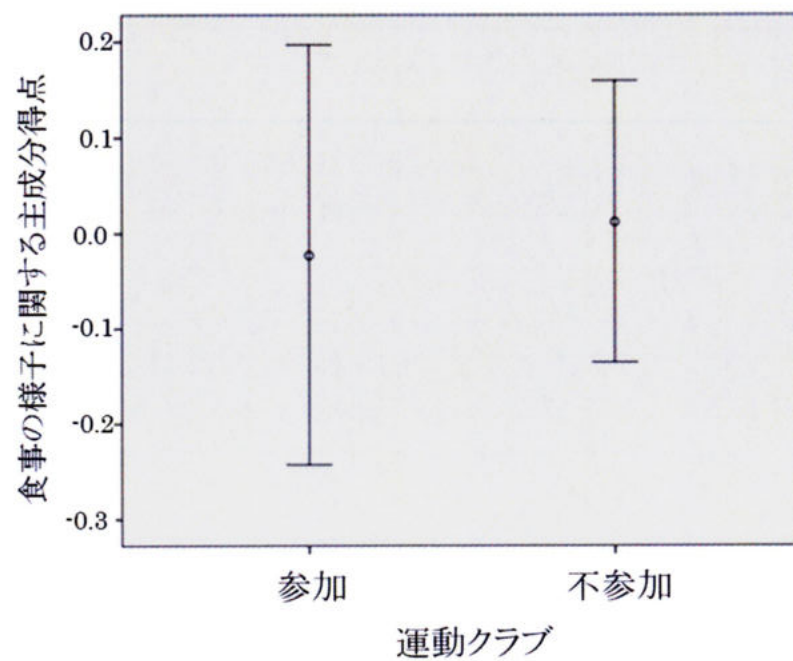


図6. 食事の様子と運動クラブ参加の関係（幼児）

○は平均値、error barは95%信頼区間を示す。群間の比較には、Mann-WhitneyのU検定を用いた（ $p = 0.18$ ）。

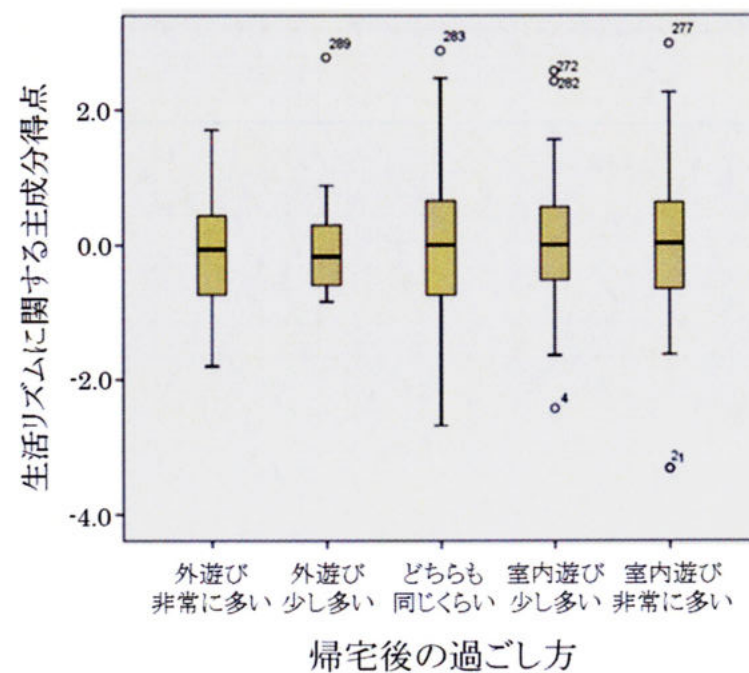


図7. 生活リズムと帰宅後の過ごし方の関係（幼児）

barの上下端はそれぞれ最大値、最小値を、箱の上端は75%値、下端は25%値、箱の中の線は中央値、○は外れ値を示す。群間の比較には、Kruskal-Wallis検定を用いた（ $p = 0.94$ ）。

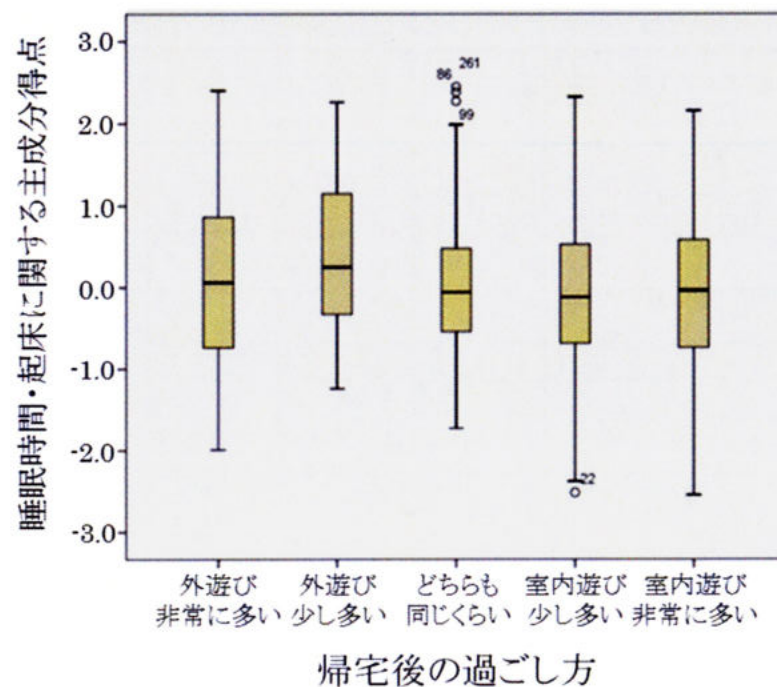


図8. 睡眠時間・起床と帰宅後の過ごし方の関係（幼児）

barの上下端はそれぞれ最大値、最小値を、箱の上端は75%値、下端は25%値、箱の中の線は中央値、○は外れ値を示す。群間の比較には、Kruskal-Wallis検定を用いた（ $p = 0.42$ ）。

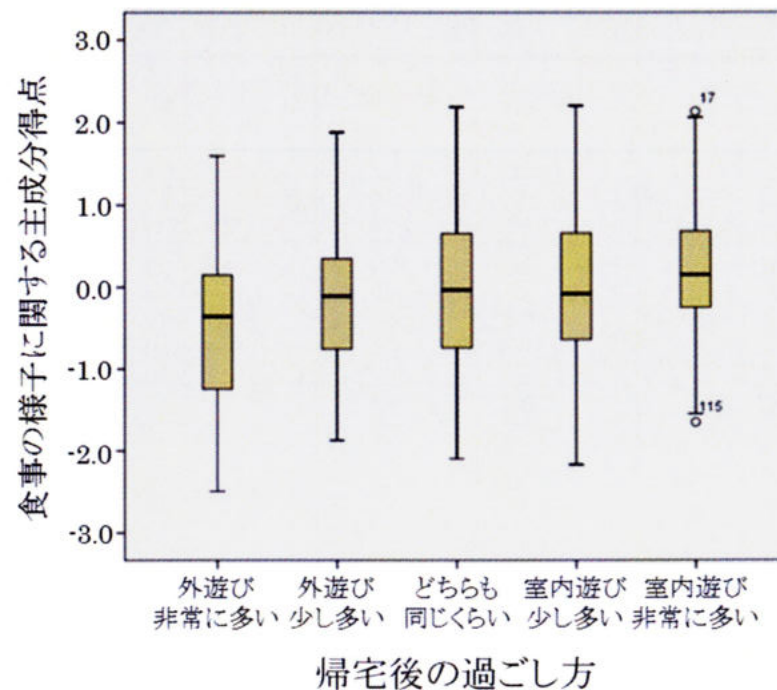


図9. 食事の様子と帰宅後の過ごし方の関係（幼児）

barの上下端はそれぞれ最大値、最小値を、箱の上端は75%値、下端は25%値、箱の中の線は中央値、○は外れ値を示す。群間の比較には、Kruskal-Wallis検定を用いた（ $p = 0.14$ ）。

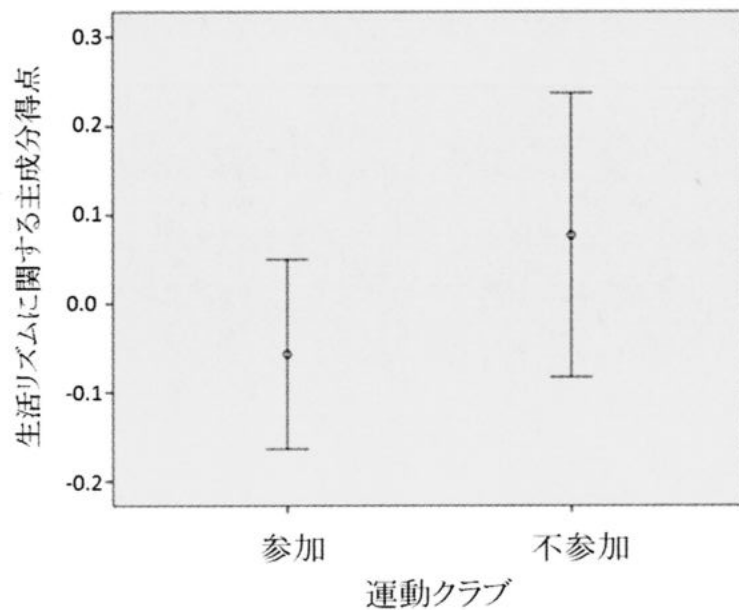


図10. 生活リズムと運動クラブ参加の関係（低学年）

○は平均値、error barは95%信頼区間を示す。群間の比較には、Mann-WhitneyのU検定を用いた（ $p = 0.19$ ）。

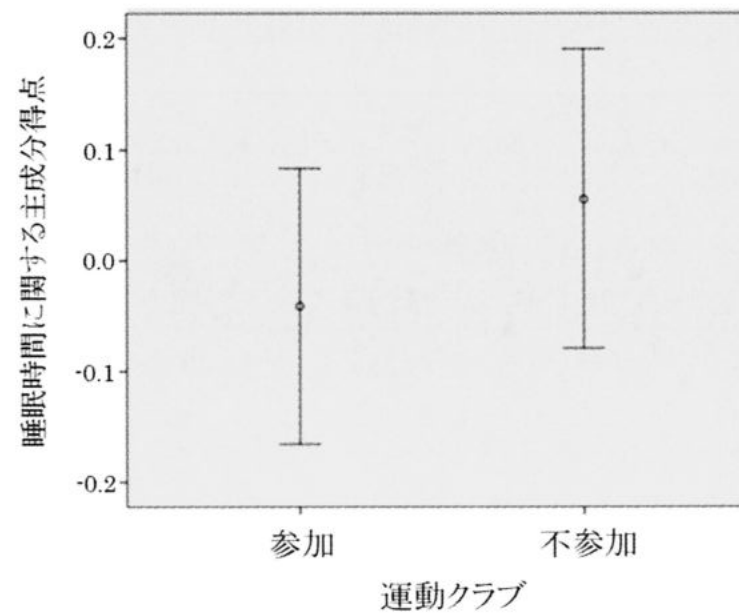


図11. 睡眠時間と運動クラブ参加の関係（低学年）

○は平均値、error barは95%信頼区間を示す。群間の比較には、Mann-WhitneyのU検定を用いた（ $p = 0.25$ ）。

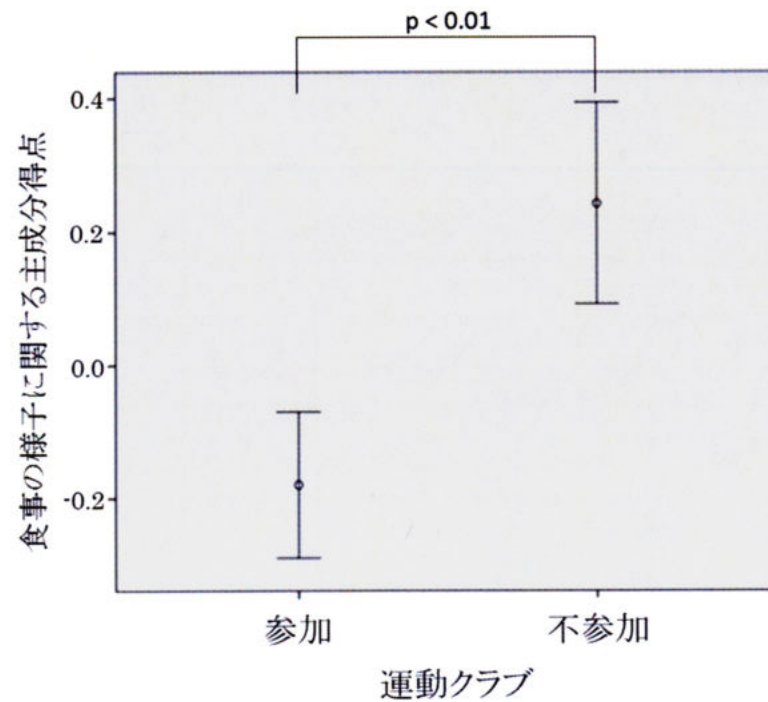


図12. 食事の様子と運動クラブ参加の関係（低学年）

○は平均値、error barは95%信頼区間を示す。群間の比較には、Mann-WhitneyのU検定を用いた。

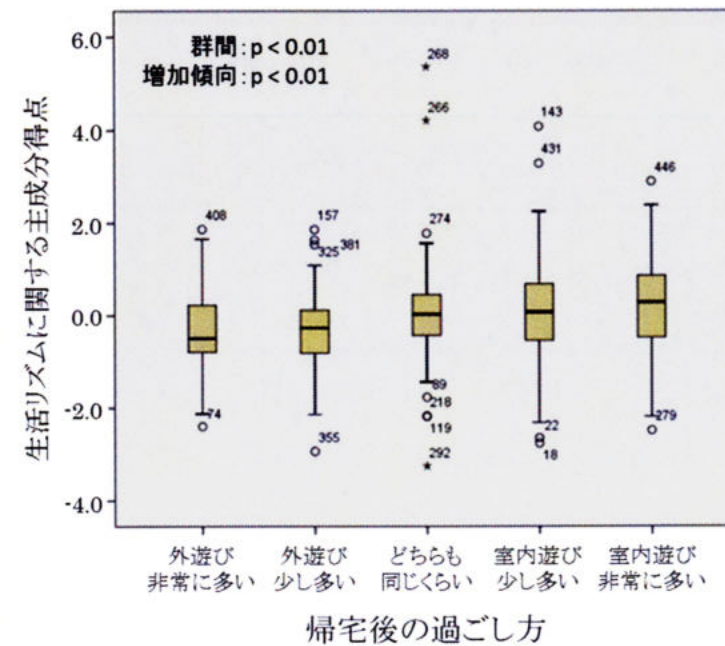


図13. 生活リズムと帰宅後の過ごし方の関係（低学年）

barの上下端はそれぞれ最大値、最小値を、箱の上端は75%値、下端は25%値、箱の中の線は中央値、○は外れ値を示す。群間の比較にはKruskal-Wallis検定を用い、増加傾向の検定にはShirley-Williams法を用いた。

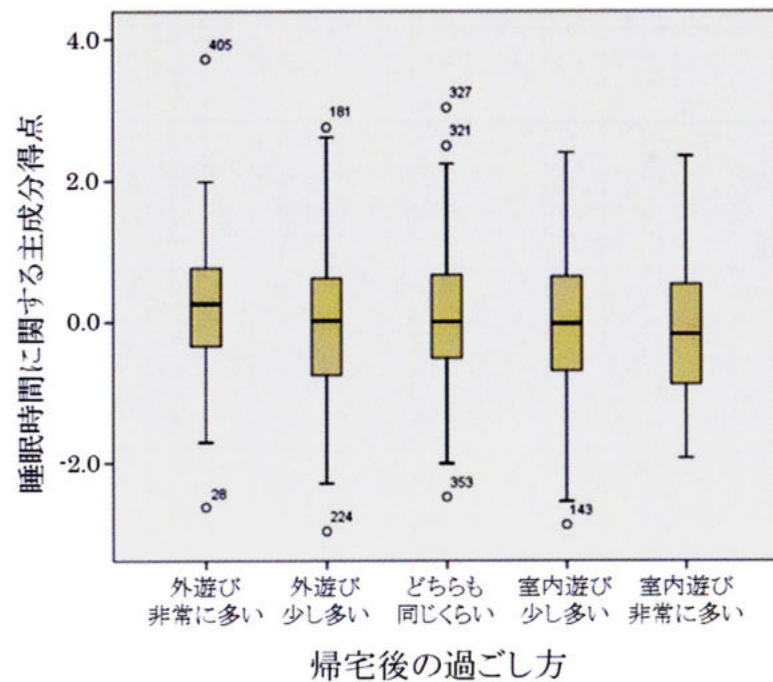


図14. 睡眠時間と帰宅後の過ごし方の関係（低学年）

barの上下端はそれぞれ最大値、最小値を、箱の上端は75%値、下端は25%値、箱の中の線は中央値、○は外れ値を示す。群間の比較には、Kruskal-Wallis検定を用いた（ $p=0.27$ ）。

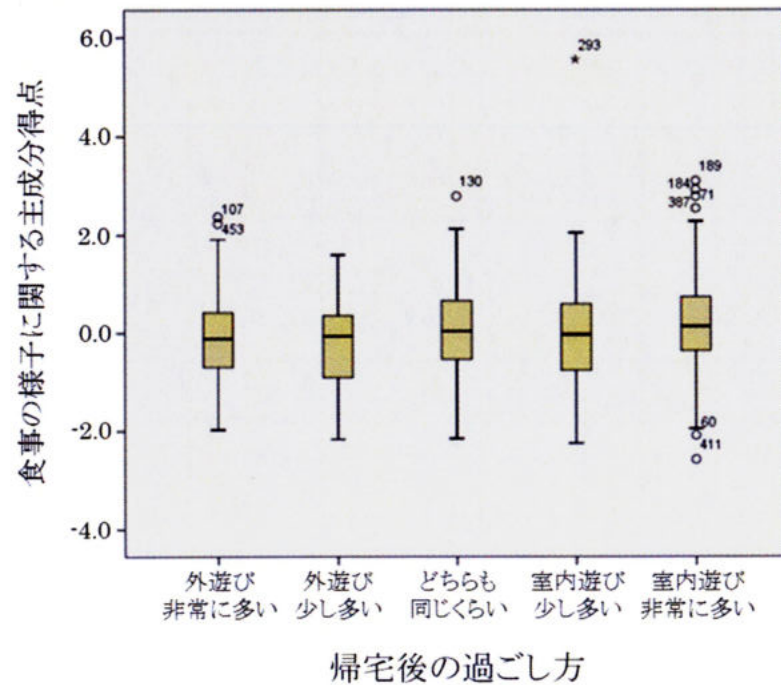


図15. 食事の様子と帰宅後の過ごし方の関係（低学年）

barの上下端はそれぞれ最大値、最小値を、箱の上端は75%値、下端は25%値、箱の中の線は中央値、○は外れ値を示す。群間の比較には、Kruskal-Wallis検定を用いた（ $p=0.16$ ）。

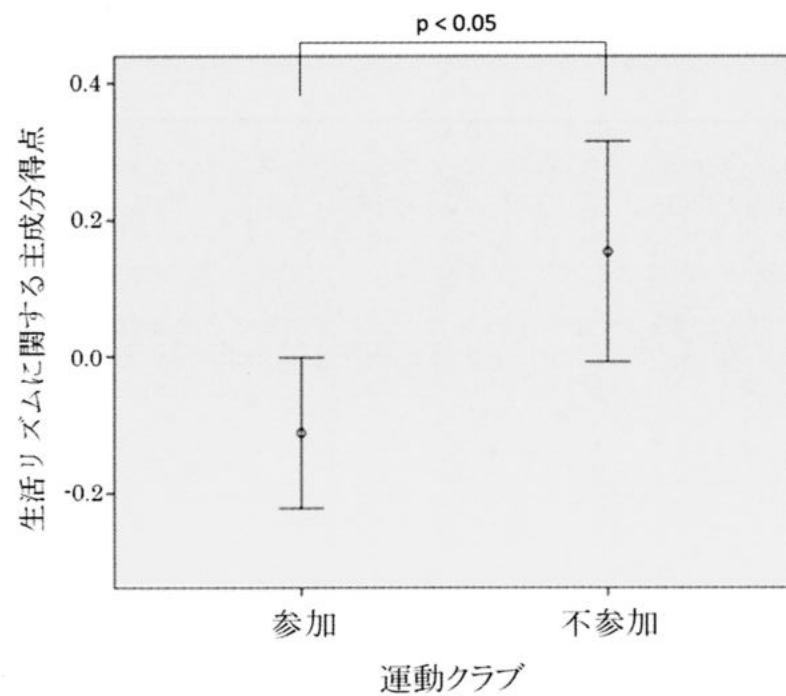


図16. 生活リズムと運動クラブ参加の関係（高学年）

○は平均値、error barは95%信頼区間を示す。群間の比較には、Mann-WhitneyのU検定を用いた。

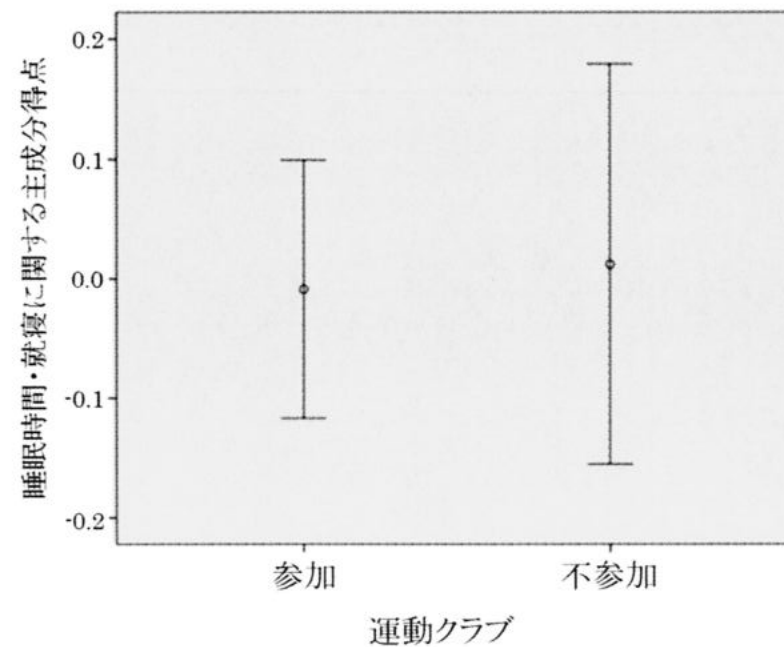


図17. 睡眠時間・就寝と運動クラブ参加の関係（高学年）

○は平均値、error barは95%信頼区間を示す。群間の比較には、Mann-WhitneyのU検定を用いた（ $p = 0.40$ ）。

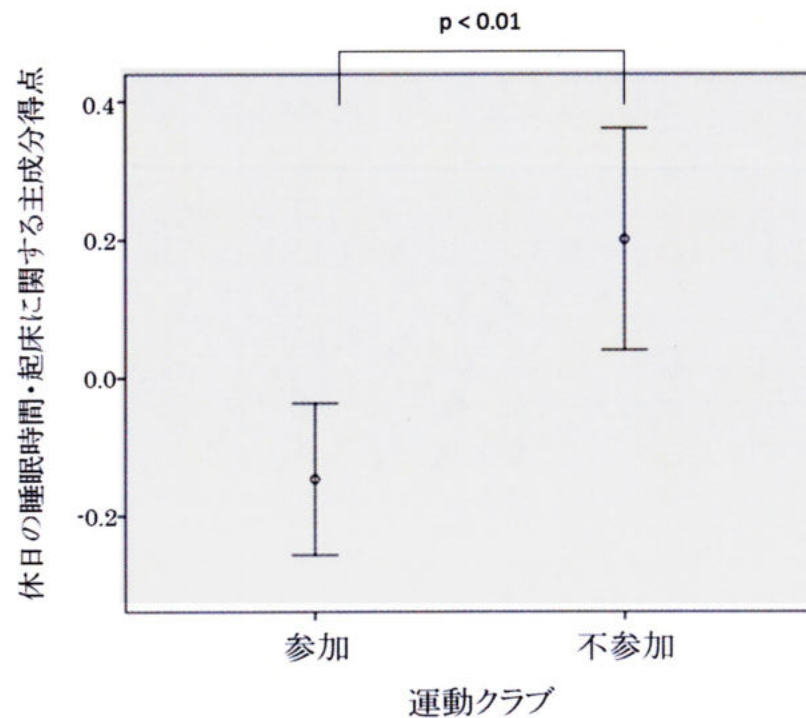


図18. 休日の睡眠時間・起床と運動クラブ参加の関係（高学年）

○は平均値、error barは95%信頼区間を示す。群間の比較には、Mann-WhitneyのU検定を用いた。

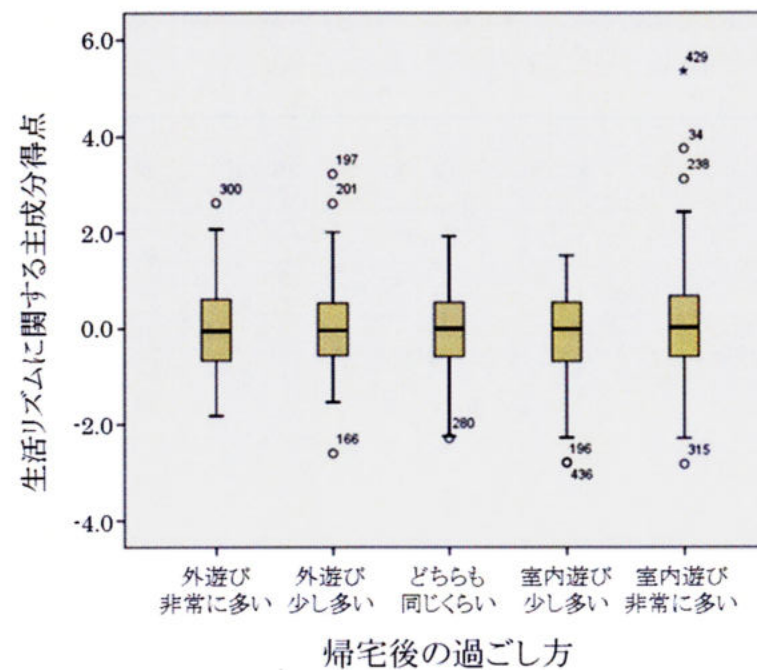


図19. 生活リズムと帰宅後の過ごし方の関係（高学年）

barの上下端はそれぞれ最大値、最小値を、箱の上端は75%値、下端は25%値、箱の中の線は中央値、○は外れ値を示す。群間の比較にはKruskal-Wallis検定を用いた（ $p = 0.99$ ）。

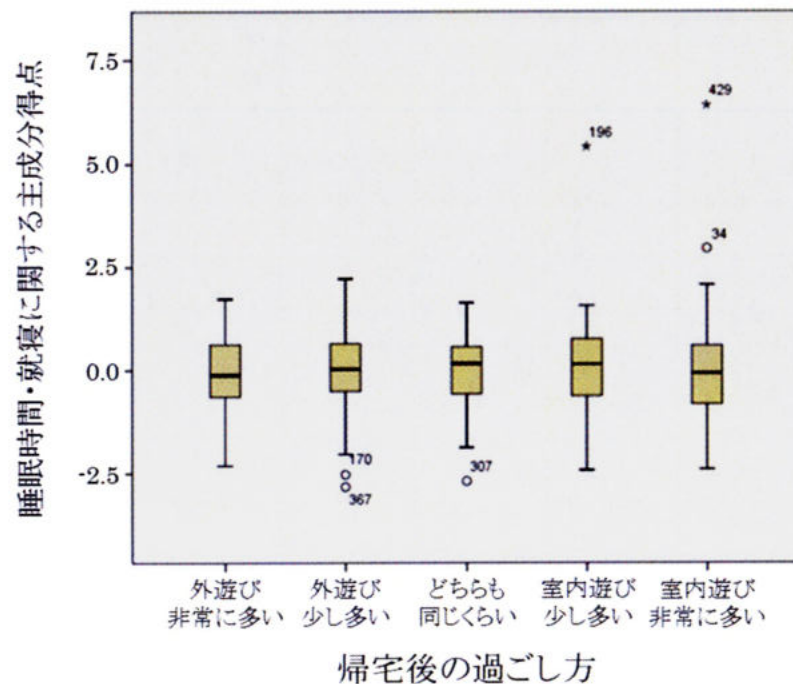


図20. 睡眠時間・就寝と帰宅後の過ごし方の関係（高学年）
 barの上下端はそれぞれ最大値、最小値を、箱の上端は75%値、下端は25%値、箱の中の線は中央値、○は外れ値を示す。群間の比較にはKruskal-Wallis検定を用いた（ $p=0.37$ ）。

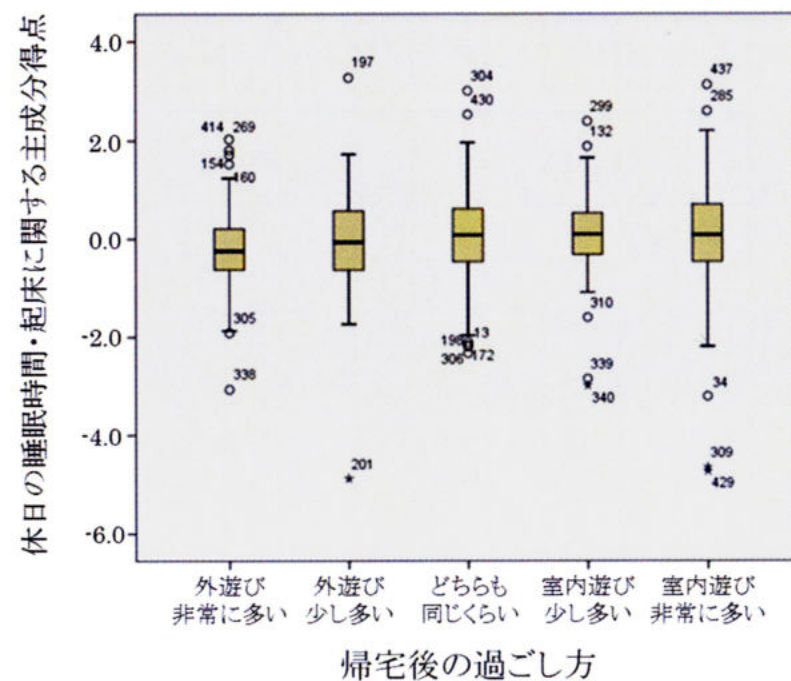


図21. 休日の睡眠時間・起床と帰宅後の過ごし方の関係（高学年）
 barの上下端はそれぞれ最大値、最小値を、箱の上端は75%値、下端は25%値、箱の中の線は中央値、○は外れ値を示す。群間の比較にはKruskal-Wallis検定を用いた（ $p=0.05$ ）。

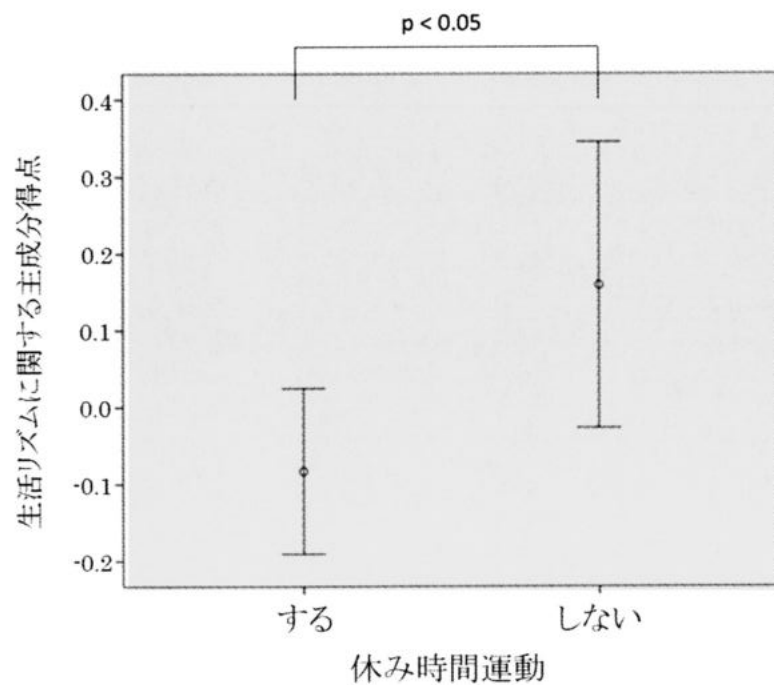


図22. 生活リズムと休み時間の運動実施の関係（高学年）

○は平均値、error barは95%信頼区間を示す。群間の比較には、Mann-WhitneyのU検定を用いた。

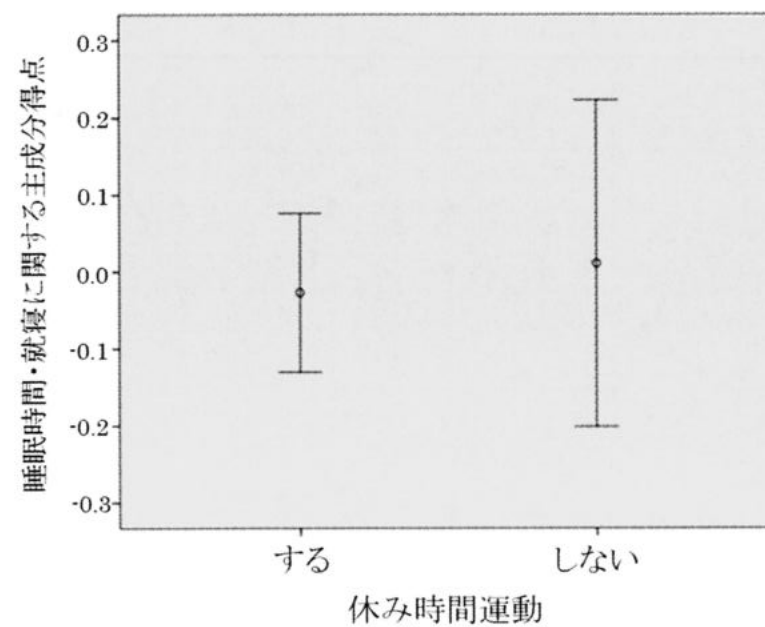


図23. 睡眠時間・就寝と休み時間の運動実施の関係（高学年）

○は平均値、error barは95%信頼区間を示す。群間の比較には、Mann-WhitneyのU検定を用いた（ $p = 0.45$ ）。

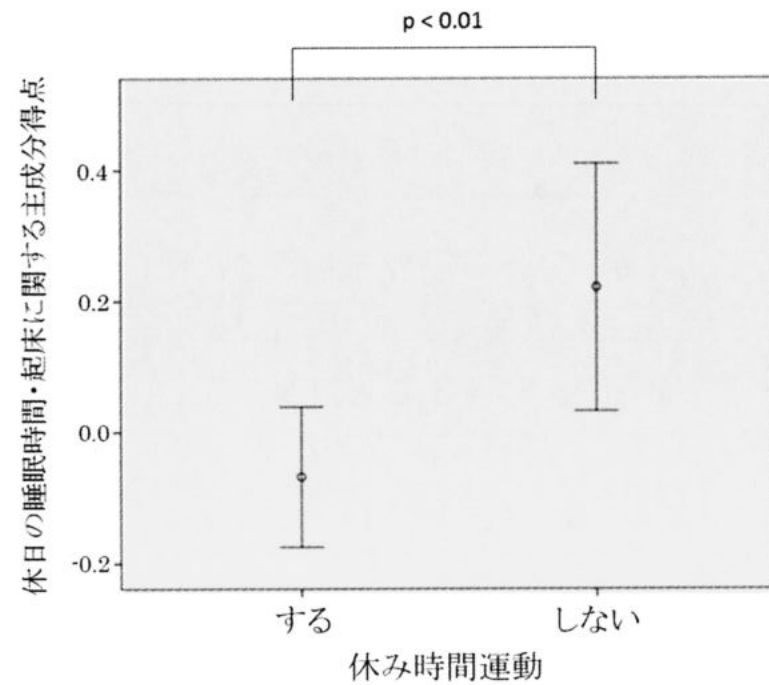


図24. 休日の睡眠時間・起床と休み時間の運動実施の関係（高学年）

○は平均値、error barは95%信頼区間を示す。群間の比較には、Mann-WhitneyのU検定を用いた。

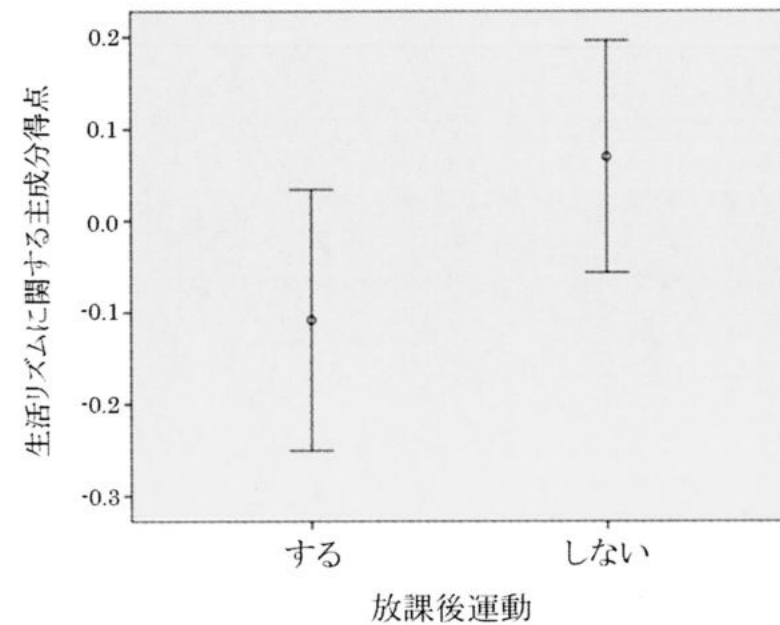


図25. 生活リズムと放課後の運動実施の関係（高学年）

○は平均値、error barは95%信頼区間を示す。群間の比較には、Mann-WhitneyのU検定を用いた（ $p = 0.11$ ）。

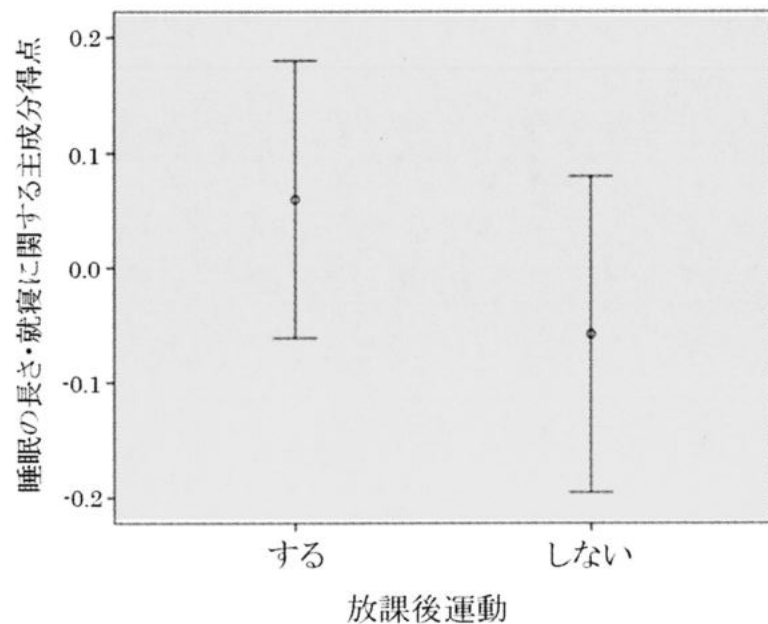


図26. 睡眠時間・就寝と放課後の運動実施の関係（高学年）

○は平均値、error barは95%信頼区間を示す。群間の比較には、Mann-WhitneyのU検定を用いた（ $p = 0.10$ ）。

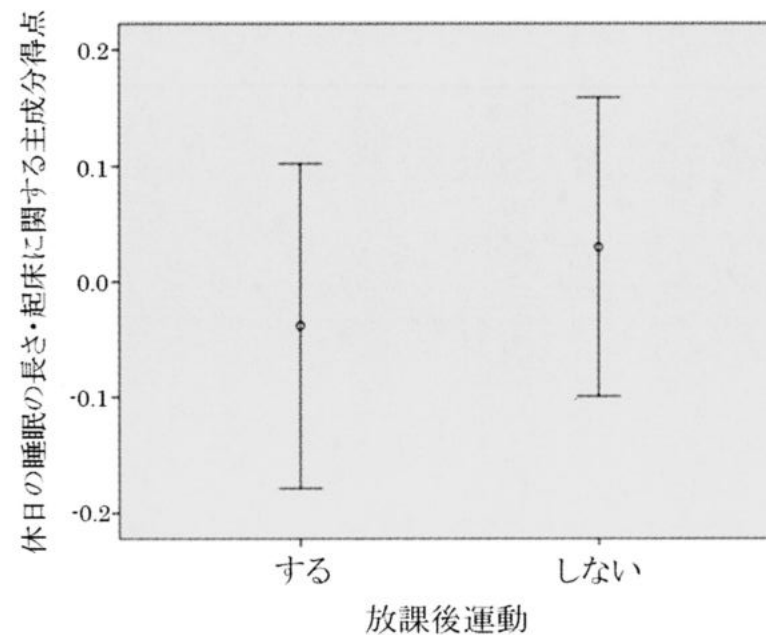


図27. 休日の睡眠時間・起床と放課後の運動実施の関係（高学年）

○は平均値、error barは95%信頼区間を示す。群間の比較には、Mann-WhitneyのU検定を用いた（ $p = 0.23$ ）。

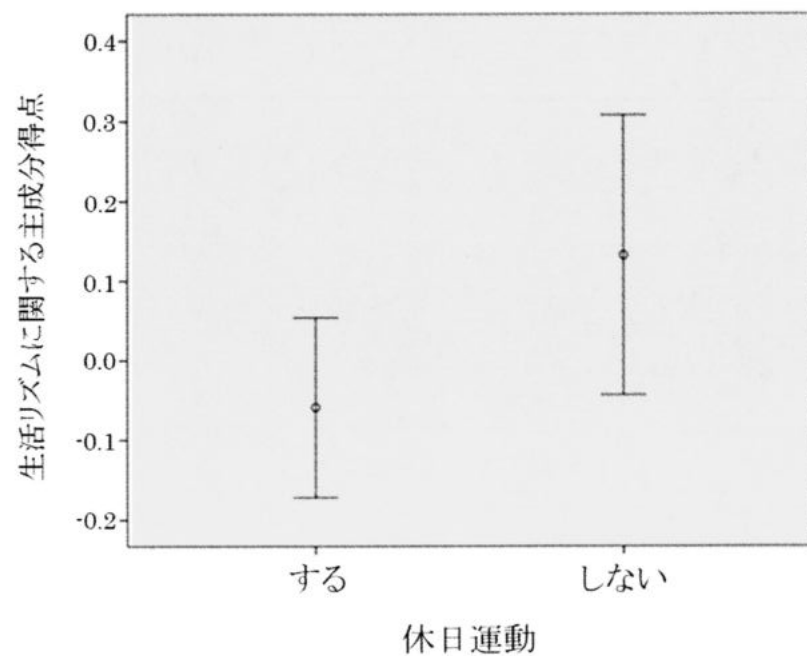


図28. 生活リズムと休日の運動実施の関係（高学年）

○は平均値、error barは95%信頼区間を示す。群間の比較には、Mann-WhitneyのU検定を用いた（ $p = 0.08$ ）。

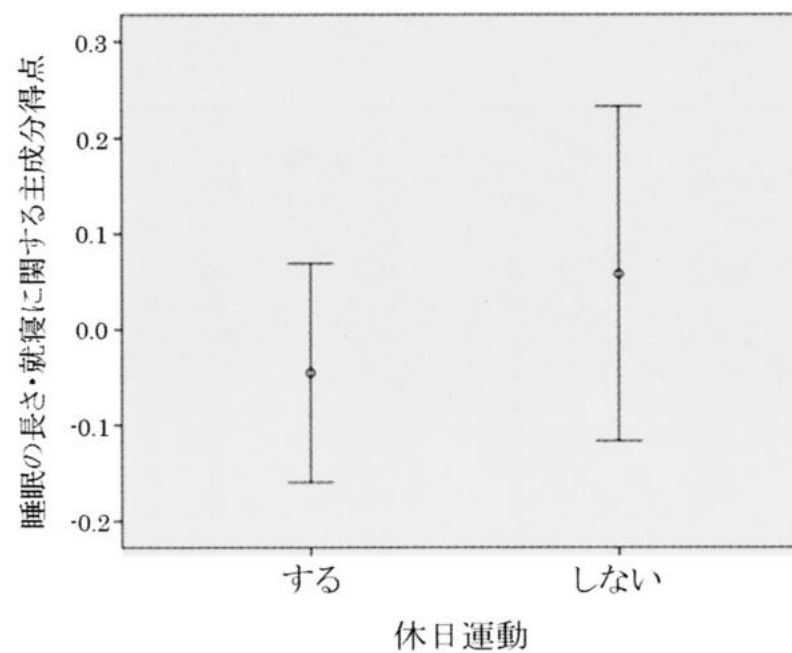


図29. 睡眠時間・就寝と休日の運動実施の関係（高学年）

○は平均値、error barは95%信頼区間を示す。群間の比較には、Mann-WhitneyのU検定を用いた（ $p = 0.65$ ）。

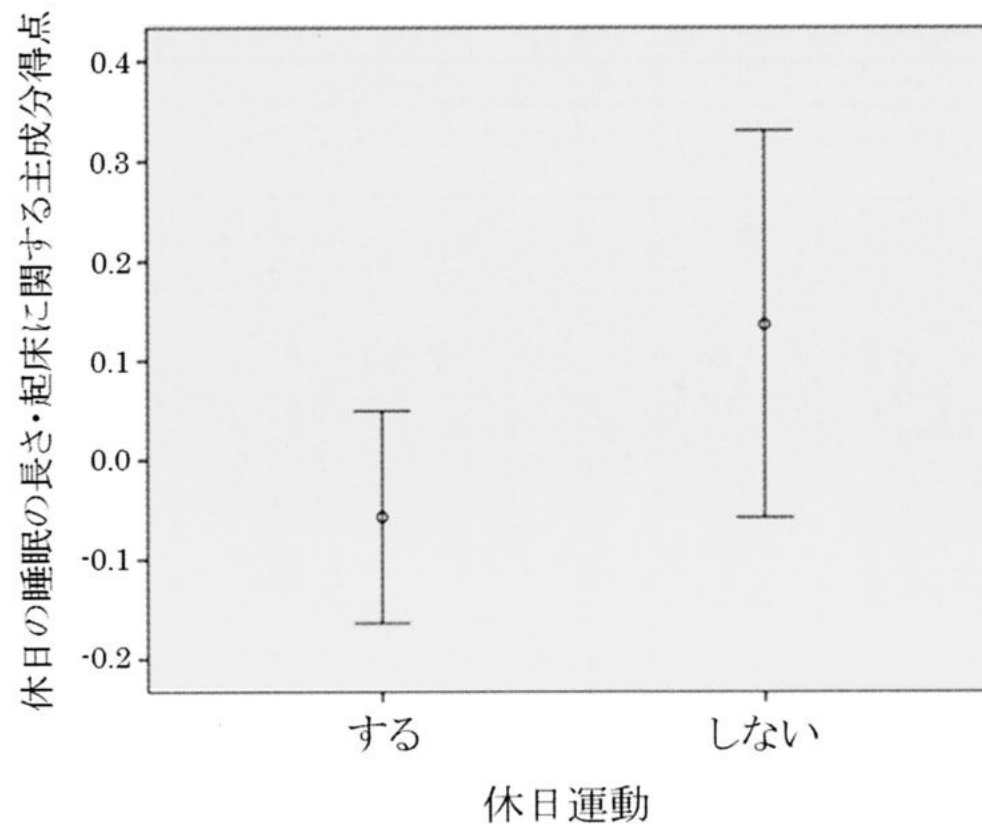


図30. 休日の睡眠時間・起床と休日の運動実施の関係（高学年）

○は平均値、error barは95%信頼区間を示す。群間の比較には、Mann-WhitneyのU検定を用いた（ $p = 0.09$ ）。